

## 認定こども園 ミライズそら



## 認定こども園 あおがき



保育者をめざす学生たちの

# 認定こども園見学ツアー

保育人材の確保に向け、保育者をめざしている湊川短期大学2年生（46人）を対象に、市内認定こども園2園の見学ツアーを行いました。施設見学や保育参観では、生活や遊びの様子を見たり、園児と触れ合ったりすることで、こどもとかかわる楽しさを感じる時間となりました。また、市内の先輩保育者との交流を通じ、実践を聴いたり質問をしたりする中で、『保育の魅力』に触れる機会となりました。

### 先輩保育者との交流

将来像を描きながら、学生からはたくさんの質問が出ました。

- ♥ こどもとかかわる時に何を大切にしていますか？
- ♥ どんな時に保育者としてのやりがいを感じますか？
- ♥ 苦労されたこと、失敗してしまったことを聴かせてください。



### 先輩保育者からのメッセージ

保育はこどもとともに自分も成長できる  
すてきな仕事です。みなさんの若い力に  
期待しています。



### 学生からの感想

0歳児と5歳児では活動の内容  
も姿も全く違い、保育者の声の  
かけ方にも違いがあることに気づきました。

不安な部分や知りたかったことについて、丁寧にお話ししてくださいましたのでとても嬉しかったです。現場に出ることへの意欲を高めることができました。

失敗をしても切り替える大切さ、失敗は学びのチャンスであるということを教えてもらい、とても大切なことだと感じました。



わたしにあった  
コースはAかな?

一人ひとりを  
大切にした  
インクルーシブ教育の  
実現に向けて

# DO IT NOW



アセスメントシートで  
チェックしてみました



## すべてのこどもたちの幸せな未来のために

教室には、多様な教育的支援を必要とするこどもたちが在籍しています。

丹波市教育委員会では、一人ひとりを大切にしたインクルーシブ教育を推進するため、2025年から2030年までを見据えた

「丹波市特別支援教育ビジョン～DO IT NOW～」を策定しました。

すべてのこどもたちの幸せな未来のために、学校と連携し、「今」できることに取り組んでいます。

## 仕事の内容を教えてください。

私は言葉や聴こえに困り感のある「こどもたち」を支援しています。授業の様子を観察したり実際に関わったりしながら、その子がどんなところでつまずきやすいのか、どうすれば力を發揮しやすいのかを見立てています。学校の先生方と連携して、その子らしさが生きる支援を一緒に考えて、言葉の力を通してこどもたちが自信を持つて自分を表現できるよう、日々向き合っています。

## 仕事をする上で、大事にしていることを教えてください。

言葉やコミュニケーションの力は、その子の世界を広げ、人と繋がるための大切な手段だと考えています。その力を育むために、一人ひとりの発達段階や特性に合わせた関わりを大切にし、できたことや分かったことを丁寧に積み重ねていけるよう支援していきます。言葉の奥にある思いや意図を汲み取りながら、安心して自分を表現できる環境を整え、信頼関係を築くことを何より大切にしています。



専門家チーム 言語聴覚士  
戸倉 瑠香さん

## 仕事の内容を教えてください。

私が支援する児童は病気を抱えています。詳しい病名は、ここではお話しできませんが、毎日、医療行為が必要で、いつ不調になるか分かりません。ですから、学校生活のほとんどを近くで見守っています。大きな行事の際の見守りが一番心配なので、学校では医療的ケア安全委員会が発足され、いかに安全に行事に参加してもうか話し合っています。主治医や保護者とも密に情報交換をして、病気や治療への理解を深めながら支援を続けています。

## こどもの学びを支えるために、大事にしていることを教えてください。

学びを支えるにあたって私は三つのことを大事にしています。

一つ目は、学びの場であることを優先しながら看護していくことです。授業に参加してもうることはもちろん、給食当番や掃除などすべての教育活動にできるだけ参加してもらつことをめざしています。

二つ目は、児童との距離感です。家族に代わって医療行為をするので児童は近い存在として見てくれます。ですが、近いとすべてのことに支援を求めがちになります。このことが学びの妨げにならないように良い距離を保つよう気を付けています。

三つめは、もう一つの学びを支えることです。病気のある児童は学校での学びに加えて、病気とともに生きていいくという課題も抱えています。自分の病気のことと少しずつ理解してもらい、自己管理ができるように支援していくたいと思います。



看護介助員  
辻 尚子さん

# 「一人ひとりを大切にした教育をめざして」



語彙を広げ、集中力を高めたり、ルールを守ったりする力を身につける「しりとりカードゲーム」

「丹波市特別支援教育ビジョン～DO IT NOW～」とは、だれもが相互に人格と個性を理解しあい、支えあう教育（インクルーシブ教育）の実現をめざすための、すべての教職員に向けた指針です。

このビジョンは「適切なアセスメント\*に基づいた個に応じた指導」、「多様性を認めあう学級づくり・授業づくり」の二本の柱を基に、具体的な取組を推進しており、このうち、令和7年度から「相談・支援体制の充実」を目的として、**心理士、作業療法士、言語聴覚士、指導主事**で構成する「特別支援教育専門家チーム」を教育支援センターに設置しました。学校への巡回相談を実施し、専門的見地からこどもの困り感を見立て、支援の方向性を教職員に助言します。

また、専門家チームの他にも、さまざまな職種の方がこどもたちや先生を支えています。

多様な支援の形がある中から、今回は4の方にお話を伺いました。

\*アセスメント：こどもの様子や背景を見取り、実態把握を行い、どのような支援が必要なのかを考える一連の流れのこと。



こどもの困り感を見立て、支援の方向性を教職員にフィードバックします

## 仕事の内容を教えてください。

「こどもの行動観察、先生からの聞き取りなどを通して、こどもの言動の背景にあることをアセスメントしています。行動観察では、表情、声色、周りの状況、しぐさなどに注目し、先生からは、普段と観察時の違いなどを聞き取ります。また、検査報告書がある場合は、医学的・心理学的な情報から考えられる「こどもの特徴や支援方法をお伝えします。こどもと支援者双方に微力ながら貢献できるように、多角的な視点のアセスメントを行い、フィードバックしています。

## 仕事をする上で、大事にしていることを教えてください。

こどもの将来を見据えたフィードバックをすることを大切にしています。具体的には、特に課題になる」と、強みを探すことです。課題になる面については、教職員のみなさんへ、できるだけ取り組みやすい支援方法を提示することを心がけています。強みについては、プラス面を意識すると、そのこどもの課題とどのように向き合うかなどのヒントになります。支援方針を考える際の基盤となる部分を強化するイメージで取り組んでいます。



通級指導担当教員  
古林 大了さん

## 仕事の内容を教えてください。

通級による指導では、一人ひとりの課題や実態に応じた自立活動を週に1・2回程度、巡回指導を行っています。

例えば、集団の中で状況に応じた行動が苦手な児童には、上手く人と関わるコツやソーシャルスキルを教え、手先や指先を上手に使うことや目と手の動きを合わせることに課題がある児童とは、ビジョントレーニングや感覚統合運動遊びをしています。

## 仕事の内容を教えてください。

通級教室が「安心できる」「認めてもらえた」「できた！分かった！」喜びを感じ、心のエネルギーが溜まるパワースポットにしたいです。そのためにも、何でも話せ、自分らしく表現できる心の安心・安全基地となるよう、こどもが好きなことや得意分野に共感し、喜びを分かち合い、上手くいかないときは、こどものつらさや困り感に寄り添い、一緒に悩み、考える「よき理解者」でありたいです。また、「課題」の中に「強み」を、「問題」の中に「できる」を見つけて、「できた自分・できる自分」というプラスのイメージを持たせ、明日への笑顔につなげていきたいです。



専門家チーム 公認心理師  
足立 薫音さん